

GP通信

発行
大垣女子短期大学
GP 専門部会



いねいしーのこし特集



「おにごっこ」で親子のふれあいと体力向上をしようと、十一月十五日(土)に本学で「親子でおにごっこ」大垣大会が開催され、幼児から小学生、保護者を含め約300名の参加者がありました。大会には、おにごっこ博士で知られる羽崎泰男さんを講師に招き、一般的なおにごっこと新作のおにごっこを地域の方々と教職員、学生たちで楽しみました。改めておにごっこをやってみるとただ走るだけでなく、奥が深く、チームワークが必要であり一緒に作戦を考え、声を掛け合いながらゲームを行うチームスポーツでした。体力向上と共に、親子や友達とのコミュニケーションツールとして貴重な遊びとなりました。

学生のお顔は素敵

「おにごっこ大会」に参加した学生は自ら大会に参加したいと申し出た学生の集まりであり、学生自身が意欲的に地域の方々にも解けこみ、老若男女とても元気よくノリが良かったように思います。特に午後部では学生が審判としてマイクを持ち、子ども達に積極的に声をかけている様子は子育て支援に對してすばらしい体験の場になったのではないのでしょうか。

「おにごっこ大会」に参加した学生のお顔はとても素敵でした。おにごっこは普及を通じて、身体を動かしながらチームの作戦や組織作りの中で学生達のコミュニケーションを学ぶ場になればいいと思います。



学修意欲高まる

「学務課 齊藤貴美」

学生たちの参加意識は前向きで高く感じられました。特に幼児教育科の学生は子どもたちとの触れ合いを楽しみたいという意識が高かったようでした。「おにごっこ」は誰もが幼少期に経験し、慣れ親しんだ遊びということもあり、他学科の学生にも興味関心が高く、地域市民の方々も触れ合う場として導入しやすいものであったと思います。

この体験から新しい楽しみ方の発見と、運動能力の他に相手の視線に立ち、周りの状況判断を有するなど多くの能力を使うことが分かったのではないかと思います。また、ルー次第では遊び方が高度になり、全く別の遊びへと発展するという発想力も学修意欲を高める機会となったと考えられます。おにごっこはチームワークを通じた仲間づくりができると期待できることから、伝承していくだけでなく、地域の子育て施策として、親子で関われることと道具も使わず

学生たちによる紙芝居も

容易に楽しく遊べることを生かして、今後学生たちの体験学習の場としても広めていきたいと思えます。

おにごっこ大会の他に、子どもたちを楽しんでもらおうと幼児教育科の学生たちによる紙芝居とエプロンシアターも行われました。

紙芝居では口をあげたまま興味深く聞き入っていたり、エプロンシアターではエプロンに触れながら学生たちと遊んでいる姿がみられました。子どもたちに興味を持つてほしいという学生たちの思いも子どもたちに伝わって、やったという充実感がありました。



学生たちの紙芝居を聞き入る子どもたち。

「おにごっこに参加してよかった。」

「久しぶりに運動をして体が軽くなった気がしました。大人も子どもも関係なく本気になってとても楽しかったです。親子で参加している方々を見て将来自分も親になったらこんなふうに子どもと遊べたらいいなあと思いました。」

参加する前は、むかしの楽しかった思い出も一度楽しみたいと思い、やりたくはないけれどおにごっこぐらいならできるかもしれないという不安もありましたが、参加してみると新しいおにごっこが発見と、子どもたちと楽しんだ充実感で溢れていました。



体育館を親子で走りまわる参加者たち。